

◆ 今週のコメント

・ アメーバ赤痢(腸管アメーバ症)の報告が1例(男性, 50歳代)あります。本年の累積報告数は11例です。症状は, 下痢・粘血便です。推定感染地域は国内で, 推定感染経路は性的接触(異性間)です。

・ 風しん(検査診断例)の報告が2例(男性 30歳代, 女性 50歳代)あります。ワクチン接種歴は共に不明です。本年の累積報告数は24例と非常に多くなっており, 性別は, 男性15例, 女性9例, 年齢階級別は, 0歳代 1例, 10歳代 2例, 20歳代 7例, 30歳代 4例, 40歳代 6例, 50歳以上 4例になっています。

○風しんの年間累積報告数の推移*

	H.20	H.21	H.22	H.23	H.24
男	0	1	0	0	15
女	1	0	0	0	9
合計	1	1	0	0	24

*定点把握対象疾患から全数把握対象疾患に変更後の推移

・ 流行性角結膜炎の定点当たり報告数は1.50(15例)で, 先週(0.80, 8例)に比べ増加し, 過去5年平均値(0.51, 5例)を大きく上回っています。

・ 基幹定点からのマイコプラズマ肺炎の報告が1例あります。全国の定点当たり報告数は1.26で, 第14週(4月2日～8日)以降, 増減を繰り返しながらも増加傾向にありますので, 今後の動向にご注意ください。

◆ 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は1.49(61例)で, 第34週(8月20日～8月26日)以降, 7週連続で増加しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 五類:アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 11例】
- ・ 五類:風しん(検査診断例) 2例【1月以降の累積報告数 24例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.15	88
	② RSウイルス感染症	1.49	61
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.54	22
	④ 水痘	0.44	18
	⑤ 突発性発しん	0.39	16
眼科	流行性角結膜炎	1.50	15

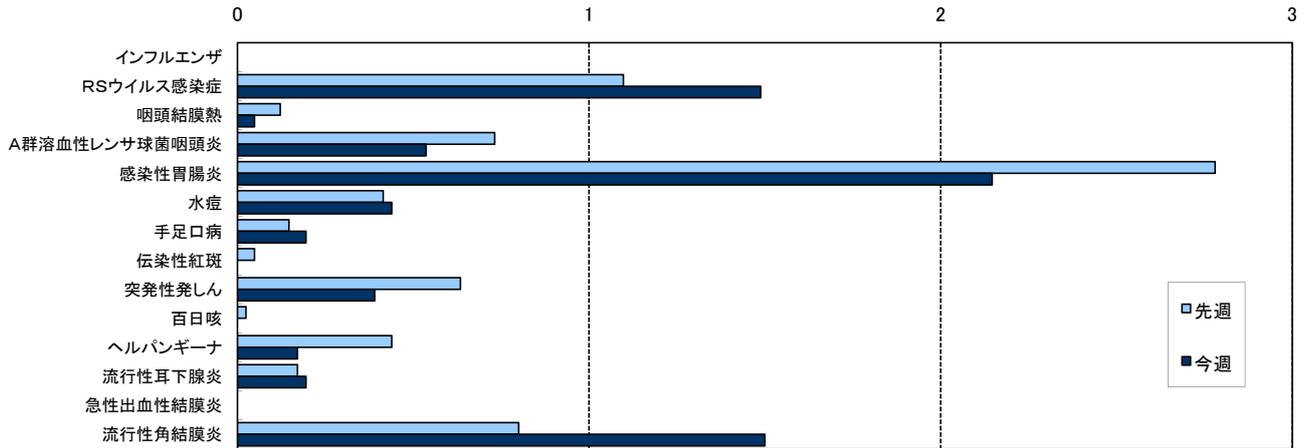
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

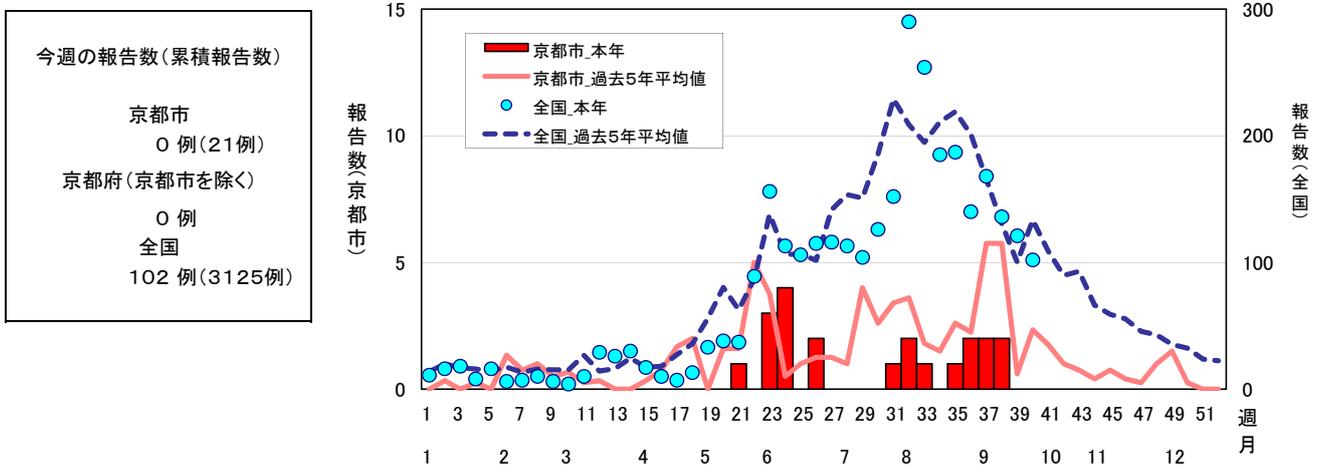
(注)京都市のデータは, 平成24年10月11日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第40週)と先週(第39週)の定点当たり報告数の比較

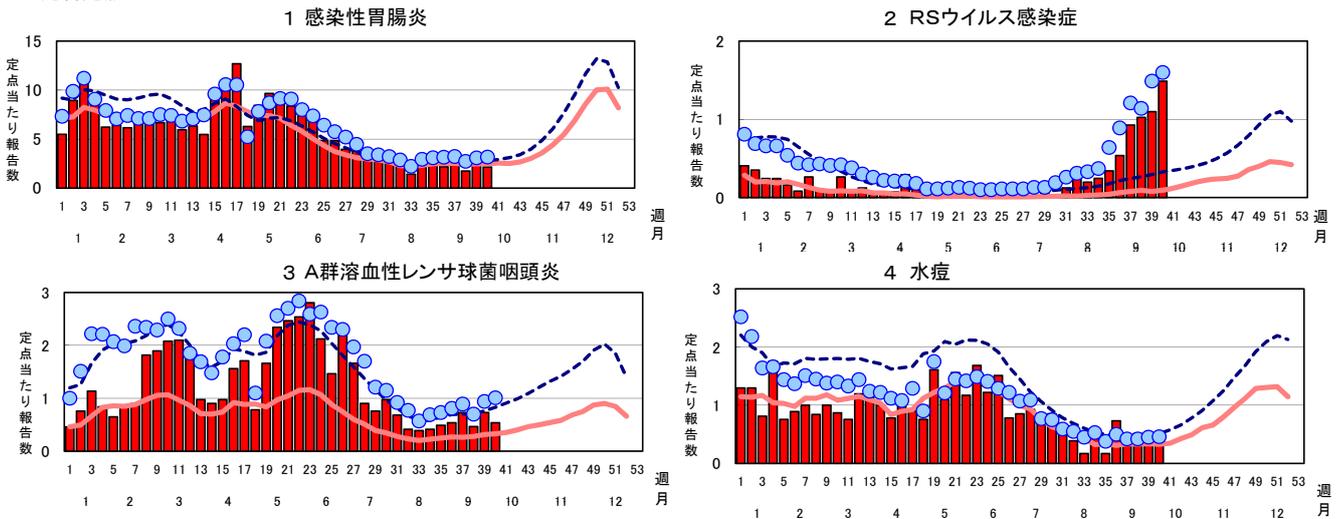


2 腸管出血性大腸菌感染症の推移

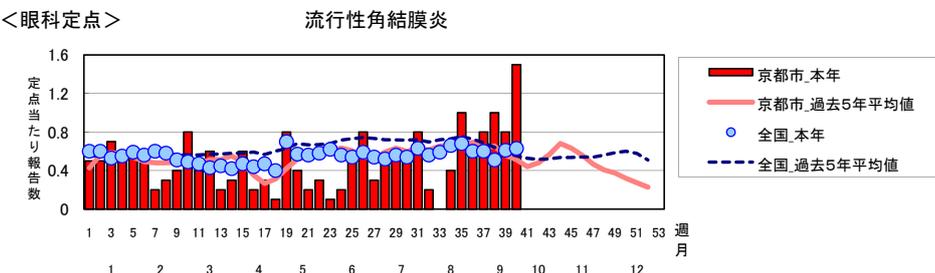


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>

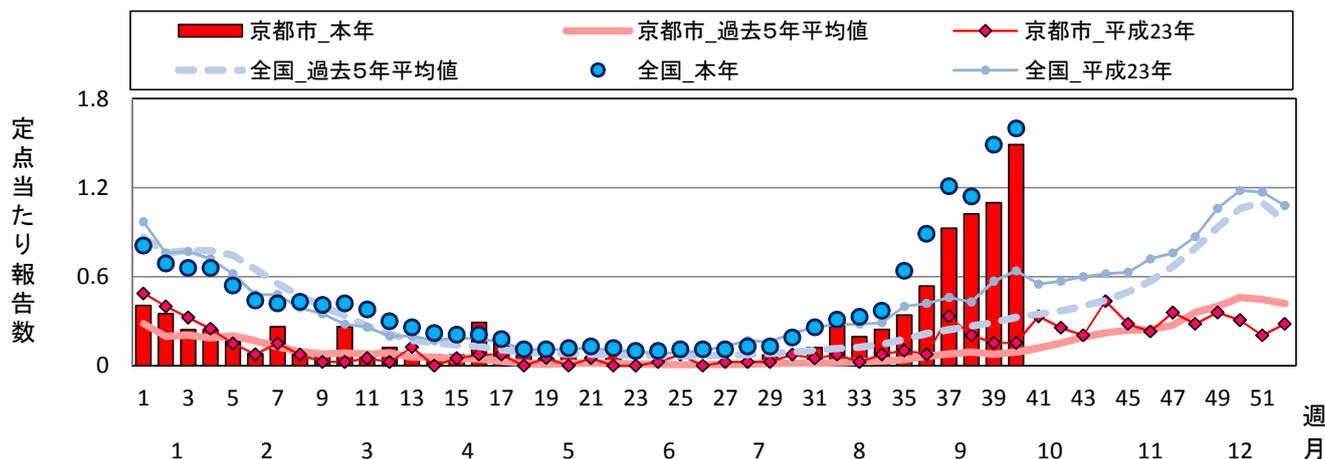


第40週(10月1日～10月7日)トピックス: <RSウイルス感染症>

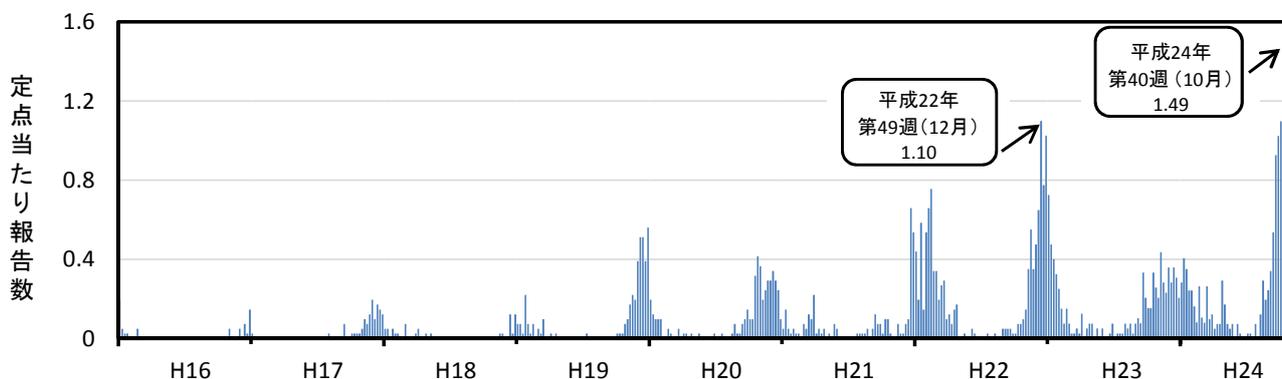
RSウイルス感染症の定点当たり報告数は1.49(61例)で、第34週(8月20日～8月26日)以降、7週連続で増加しています。「感染症法」において定点把握対象に指定された平成16年以降の定点当たり報告数では、平成22年第49週(12月6日～12月12日)の1.10が最多でしたが、本週はそれを大幅に上回り、過去最多となっています。引き続き、今後の動向にご注意ください。

全国の定点当たり報告数(1.60)は、前週(1.49)より増加しているものの、都道府県別にみると、一部で減少しています。京都市衛生環境研究所において病原体定点からの検体を検査した結果、RSウイルスは、8月に4件、9月に1件分離されています。(平成24年10月12日現在)

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



本市の平成16年以降の定点当たり報告数の推移



都道府県別定点当たり報告数の推移

